

# 母校の生徒たちに現場医療を講演

## 灘校の土曜講座で「コロナ禍を振り返り」

兵庫県神戸市の灘中学校・高等学校で10月15日、土曜講座が開かれました。講師として同校卒業生で城西病院の村田智史医師と後藤晴雄医師の2人が招かれ、「きみにとっての新型コロナとは何だったのか」をテーマに講演しました。

灘校は、全国屈指の進学校で、数多くの医師も送り出している学校です。土曜講座には中学2年から高校2年の約30人が参加。医師を目指す生徒も多く、先輩の現場体験に一生懸命聞きっていました。

講演は、村田医師から城西病院についての簡単な説明のあと、新型コロナ発生からの経緯やどのような対応を行ってきたかを解説しました。2020年に横浜港に大型クルーズ船が入港、新型コロナが蔓延する事態に、「大変な事が起こっている」と横浜まで出かけたこと、そして茨城や栃木と身近な中で新型コロナが蔓延し城西病院でも発熱外来やワクチン接種、患者受け入れなどの対応をしている実態について話しました。引き続き後藤医師は、新聞記事等で事例を挙げながら、「屋形船で新型コロナが集団感染したとき、新聞ではどこに座っていた人が感染したかが掲載されていた。何より空気感染したという状況を示しているが、長く空気感染は否定されてきた」など新型コロナに対する疑問や事例などを挙げながら生徒たちに問いかけました。

講演の後に2人は、「コロナ禍は行政や医療、報道などでいろんな課題を残してきた」と指摘。「今は、新型コロナはインフルエンザと大きく変わらない状況だ。しかし、新型コロナの対応は、今でもちぐはぐなことが多い。サイエンスコミュニケーションで根拠を



持って話し合いを続けていくことにより、少しずつ変わっていくことができる。30年後に同じような事態が起きた時に、今の経験を生かしてほしい。君たちが活躍する、もっと論理的に話し合っしてしがらみのない世界にしてほしい」とエールを送りました。

講演後、2人のもとには生徒が詰めかけ、講師2人にさまざまな質問や意見の交換をしていました。

2022年10月17日

